森の名手・名人シリーズ 36

名人 岩谷 庄精（82）
岐阜県郡上市

聞き手 伊藤 清高
岐阜県立岐阜農林高等学校二年
平成22年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、45名の「森の名手・名人」がいます。
この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

コウヤマキ枝採取・ホオノキの葉採取
郡上の名産を身近なものに

1. 自己紹介

まあ、百姓仕事を少しやったり。山にちょっと行ってキノコ採りなんかしたり。まあ、気ままに暮らしています。仕事っていうような仕事はあんまりやってないけど、コウヤマキの木やホオノキの手入れなんかをしています。

2、3年前に辞めてしまったが、木材関係の仕事を55年程やっとった。最初は小さいながら広葉樹を買って薪にして売ったりしとったけど、最終的にはトラック一杯の木材を名古屋の市場にもって行ったりしました。たくさん、苦労をしました。

2. 大和町の山

大和町の山は、わしの山でずっと昔から管理してるよ。大和町の山では、ホオノキを約150本栽培とコウヤマキの挿し木試験をしている。でも、大和町の山は重機で土を固めてしまったところにコウヤマキを植えてしまって、5、6年が経ってるけど全然大きくならない。美並町の山では、15、16年経つとるかな。もう5年くらい前から、お盆には農協の販売部に出荷しとるんやな。年々、コウヤマキが増えてつとる。

3. 枝打ち

ここの山の広さは3町歩ある。ここの山の木は高さ平均5m位まで、枝を打ってある。ほんで、枝打ちをすると無地の材のが取れるからね。枝打ちしたあとの木には、枝の跡がいっぱいあるんや。筋があるか無いかをしるためには、スギの皮をおこしてみて、枝の跡が残ると材の価値が下がるんや。

ここの山は、絶対いい職人が枝打ちをしているから、まず、変な木は無いの。同じ枝打ちでも、下手な人が打ったり、無茶苦茶に打ったりする人の山は、木は大きくなるが無地の木材を取ろうと思うと無理やわ。

枝打ちは、中々手のかかることやで、皆やっとらへんのやね。わしは以前、木材業を少しやっとったもんで。わしの山は少しの山やけど、こんなに手入れしてあるんや全部。

4. ホオノキの葉採取について

6月の終い頃かな。郡上市では寿司をホオノキの葉に包んで、ほお葉寿司やほお葉味噌などの土産ものにして売ってるんや。郡上の飲食店や道の駅や婦人会が相当利用するから、採取している。

ホオノキは、丸くて横幅の広いのを好むわけやね。その葉に寿司やお握りなんかを横に並べて、包んで売ったりするのに細い形はやっぱり好まれない。ほんで横に広い、おかめの形が好まれる。

ホオノキの葉の採取は、男の人がホオノキに登って、枝を切って落とす。ほんで、下で上から落ちてくる葉を寄せて採っている。白鳥町の婦人会なんかは、1年間で3万枚ホオノキの葉を使うよ。わしの住んでいる大和町では、だいたい平均の9千枚。ほんで、ホオノキの葉を増やすためには、女の人でも採りやすくしなきゃいけないと思いました。

5. ホオノキの低木仕立て研究

ホオノキはものすごく成長が速いの。そうやもんで、すっごく木が高くなるでしょ。低木仕立てっていうのは、ホオノキを元から切って株にすると株の横から芽が出て萌芽更新をする。まず、7本出たとして3本くらい切って葉っぱをとって売って、残りの4本は来年度に残しておくと、1年経つと残りの4本が大きくなって、女の人でも採取しやすい高さになる。

大和町の森のホオノキ

6. 郡上とコウヤマキ

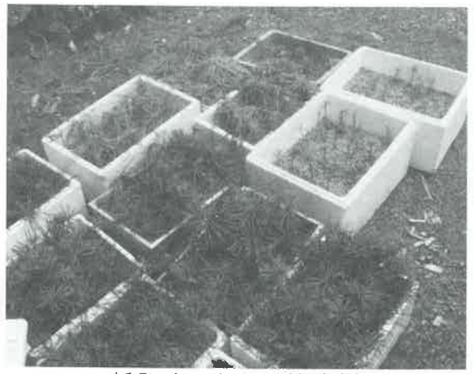
郡上市ではお盆に仏様とお墓にコウヤマキの木を飾る。まあ何しろ、郡上市ではコウヤマキがなければお盆ができないことで。

コウヤマキはスギやヒノキの材と比べるとよいところは、船なんか作ったり水桶を作るのに節があっても抜け節がないから抜けんのやわな。ほんで、桶ができても水は漏れんし。

わしらは、今までコウヤマキは山の尾根にしかないものやと思っていました。コウヤマキは山の低い所には全然ないからね。でも、郡上市役所の方に話を聞いたら、大昔の話やろうと思うけど、昔は、平地にでもコウヤマキは生えていたらしいんや。でも、スギやほかの木のせいで山の尾根まで追われていったんや。なんせ、コウヤマキは成長するのに他の木と一緒では負けてしまうんで、生きるために山の尾根まで行くしかなかった。

7. コウヤマキの研究のきっかけ

コウヤマキは山の尾根にあるから、採りに行くには30分も1時間も山を歩いて行かないといけないので、中々大変やもんで。ほんで、コウヤマキを採りに行く人がいたら、他の人が「うちのも採ってきて」と頼んでいるのを見て、コウヤマキを平地にもってこうと思いついたんや。平地でコウヤマキを作れば、誰でも採れるし。



大和町の山のコウヤマキの挿し木試験

8. コウヤマキの研究

挿し木試験は、コウヤマキの枝を切って発泡スチロールの箱に植えておくんや。これがね、皆さんどうしても駄目やそうやわ。挿し木試験をしてる人は、今まで聞いた範囲では100本植えて20本根が出たら成功したほうらしいわ。コウヤマキの挿し木の栽培では、特別なことは何もしてないんや。ただ、挿し木の余分な葉っぱは、採ってみようと思いました。

美並町の山では平地での生育に成功してるよ。大和町の山では雪が沢山降って曲がったりしてしまうから、今年は曲がらないように樹冠を紐で縛って雪が積もらないようにしておこうと思ってるんや。

コウヤマキの枝を切る名人

9. コウヤマキの枝の採取について

郡上市ではコウヤマキを専門に採ってる人はいないけど、下呂の方では3人ぐらい郡上の山でコウヤマキを採っては売っている人がいるんや。高野山へも売ってるらしんや。その人たちも山の尾根まで登って、採っとるんやね。それも、1日中採っては背中におんで。もうそういう人も、そんな山の尾根まで行かないからね。

10. 研究中

今度は、挿し木だけではなく、コウヤマキの種を山の尾根まで、採りに行こうと思ってるんや。種から育てれば挿し木で根が出る確率より、育つ確率が大きいだろうで。でも、種から育てるなら、肥料や土から研究をしなおさなきゃいかんな。

大和町の重機で固めた山にコウヤマキは育ちが悪かったが、ホオノキを植えて育ててみようと思う。

11. 後継者について

若い人がコウヤマキだけで生計をたてるのはできないから。ただ、わしが思ってるのは、高野山に行ってコウヤマキの本家で出荷できるかどうか、コウヤマキがどうゆうもんかを調べてきて、コウヤマキを種から育てていって、大量にやったら利益がでてコウヤマキだけで暮らしていけるか聞いてみたい。

わしの計算は5年かかっても、5年間は一銭も儲からんけど。それからは、儲かるわけなんや。わしらは、歳がよっとるもんで、真面目な人が後継者になり、コウヤマキやホオノキについて一人でも教えてやれば教えてもらう人も嬉しいと思うし、わしも嬉しい。若い人で中々、そうゆう人がおらないのが問題やし、やり過ぎれば重労働やし。何か希望がもてる気がするんやけど、まだわからん。後1、2年してみないと。

12. 仕事をしていて良かったと思うとき

コウヤマキを美並町の山で植林して、ほとんど根が出たときは嬉しかった。やっぱり、植え方ばっかしじゃなしに天候の加減で植えた後、2、3日雨が降ってね。しかも、本当に山の乾いたところに。いい天気が続くと、山に水をもってきて水をあげるわけにはいかないでしょ。天気のおかげで運よく雨が降ると植えたのに根が出たね。あのときは、嬉しかった。

名人 岩谷（いわや） 庄精（しょうせい）さんのプロフィール

●生年月日：昭和3年1月10日生まれ
●職業：コウヤマキの枝採取、ホオノキの葉採取

地元の郡上市内で55年間、岩谷木材を経営。現在は長年の経験を生かし、ホオノキの葉の採取やコウヤマキの挿し木増殖を実施している。後継者の育成のためにコウヤマキやホオノキの栽培の指導をおこなっている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　臼井征雄】